

令和7年度における 神奈川県内の水質事故発生状況

令和8年5月

神奈川県環境農政局環境部環境課

目次

1	水質事故発生件数.....	2
	(1) 経年変化.....	2
	(2) 事故の原因.....	2
2	水系別水質事故発生件数.....	4
3	月別水質事故発生件数.....	6
4	水質事故事例.....	7
	(1) 魚死亡事故事例.....	7
	(2) 油浮遊事故事例.....	7
	(3) その他事故事例.....	9

1 水質事故発生件数

神奈川県では、県内で発生した水質事故を集計し、県民の皆様公表するとともに、発生水域や原因等を考察し、水質事故の未然防止に取り組んでいます。

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）に県内で発生した水質事故は137件（令和6年度は148件）でした。このうち、事故の原因が判明したものは62件で、全体の45.3%（令和6年度は40.5%）に留まっています。

(1) 経年変化

県内の水質事故発生件数の経年変化を、図1に示します。

年度により変動はありますが、水質事故の件数は減少傾向にあります。

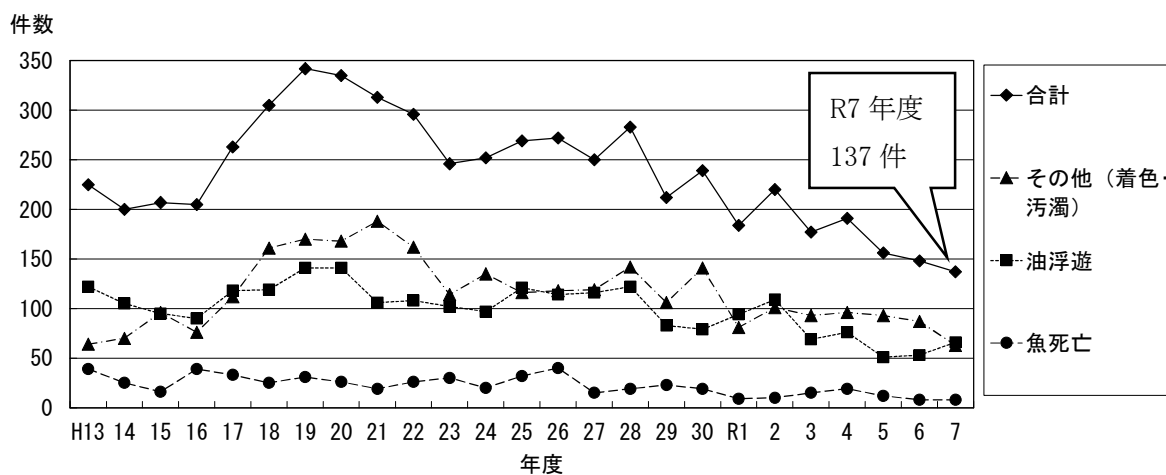


図1 水質事故発生件数の経年変化

(2) 事故の原因

原因別水質事故発生件数及び割合を、それぞれ表1及び図2に示します。

水質事故の原因別の内訳は、工事によるもの19件（13.9%）、工場など事業所によるもの29件（21.2%）、交通事故によるもの7件（5.1%）、その他のものが原因であるもの7件（5.1%）でした。

表1 原因別水質事故発生件数

原因	魚死亡	油浮遊	その他	合計
工事	1	7	11	19
工場など事業所	0	12	17	29
不法投棄	0	0	0	0
交通事故	0	7	0	7
自然現象	0	0	0	0
家庭	0	0	0	0
その他	1	3	3	7
原因判明分・小計	2	29	31	62
原因不明	6	37	32	75
合計	8	66	63	137

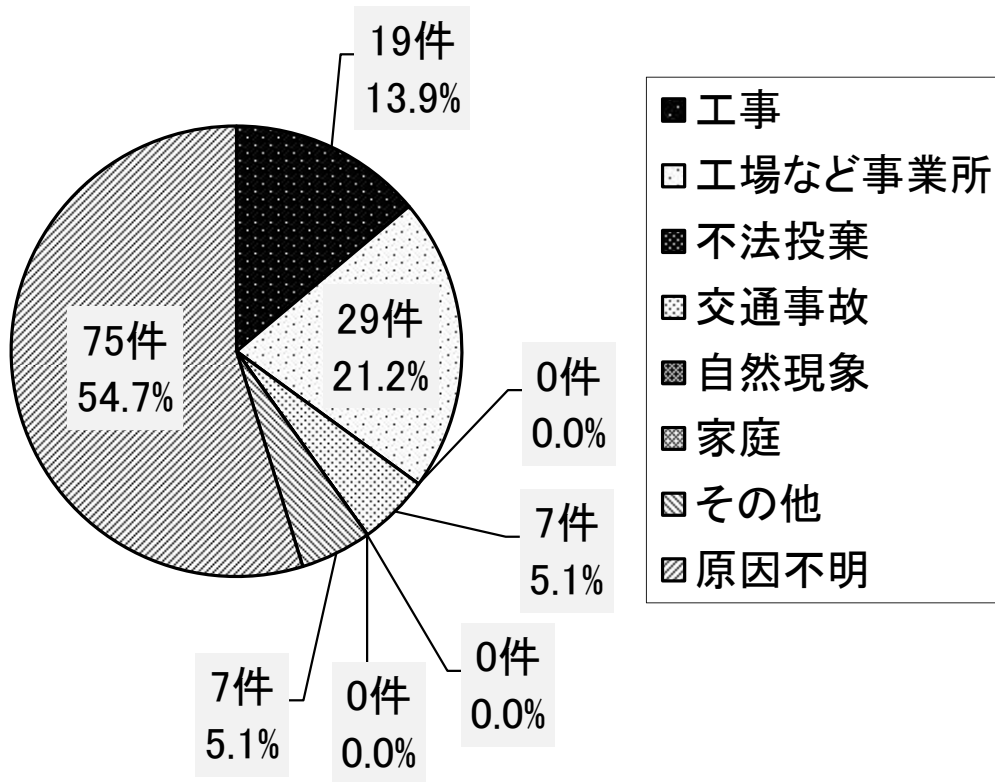


図2 原因別水質事故発生件数の割合

2 水系別水質事故発生件数

令和7年度の水系別発生件数は、境川水系が24件と最も多く、次いで湾（運河含む）が23件、相模川水系が19件でした。

事故区分別では、「油浮遊」に分類される水質事故が66件と約半数を占めており、以下着色・発泡などの「その他」が63件、「魚死亡」が8件でした。

水質事故の水系別水質事故発生件数を表2に、主な水系の水質事故発生件数及び割合をそれぞれ図3及び図4に示します。

表2 水系別水質事故発生件数

	魚死亡		油浮遊		その他(着色・汚濁)		計	
		原因判明		原因判明		原因判明		原因判明
多摩川	0	0	6	0	9	6	15	6
鶴見川	0	0	8	2	8	2	16	4
帷子川	0	0	2	2	3	0	5	2
大岡川	0	0	0	0	1	1	1	1
宮川	0	0	0	0	0	0	0	0
侍従川	0	0	0	0	0	0	0	0
鷹取川	0	0	0	0	0	0	0	0
平作川	0	0	1	0	0	0	1	0
松越川	0	0	0	0	0	0	0	0
森戸川(葉山)	0	0	0	0	1	1	1	1
下山川	0	0	0	0	0	0	0	0
田越川	0	0	0	0	1	0	1	0
神戸川	0	0	0	0	1	1	1	1
滑川	0	0	0	0	1	0	1	0
境川	3	2	7	5	14	4	24	11
引地川	1	0	1	1	1	1	3	2
相模川	2	0	10	4	7	3	19	7
金目川	0	0	2	2	2	2	4	4
葛川	1	0	0	0	0	0	1	0
中村川	0	0	0	0	0	0	0	0
森戸川(小田原)	0	0	0	0	0	0	0	0
山王川	0	0	2	2	0	0	2	2
酒匂川	0	0	6	4	2	1	8	5
早川	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の河川等	1	0	7	1	3	2	11	3
湖	0	0	0	0	0	0	0	0
湾(運河含む)	0	0	14	6	9	7	23	13
合計	8	2	66	29	63	31	137	62
原因判明率		25.0%		43.9%		49.2%		45.3%
前年度 計	8	1	53	25	87	34	148	60
原因判明率		12.5%		47.2%		39.1%		40.5%

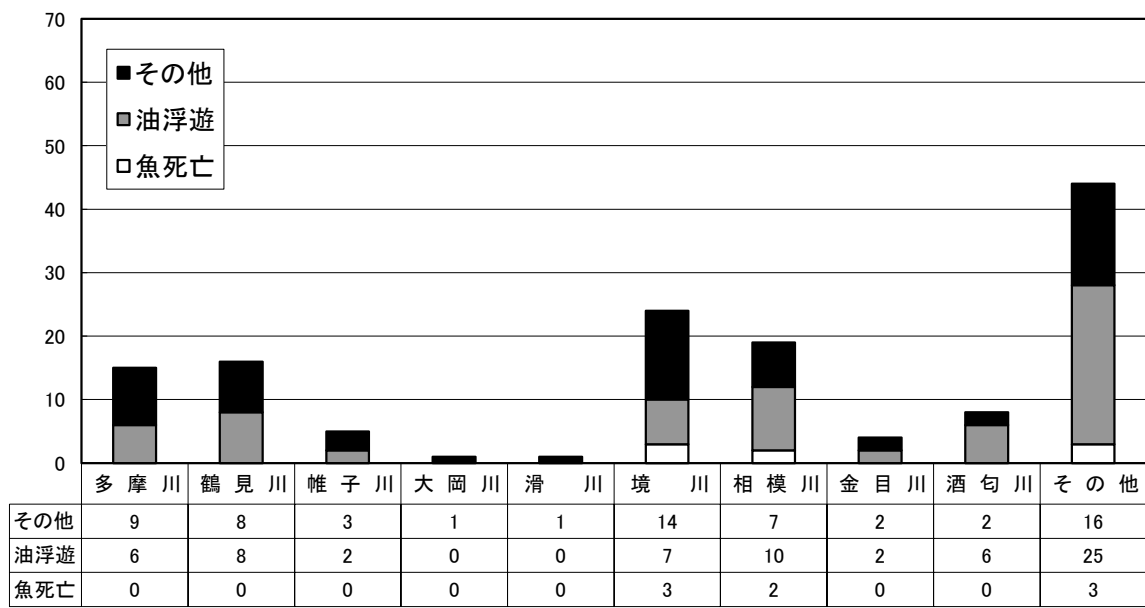


図3 水系別水質事故発生件数

※「その他」にはグラフに記載のある河川以外の河川、湖及び湾が含まれます。

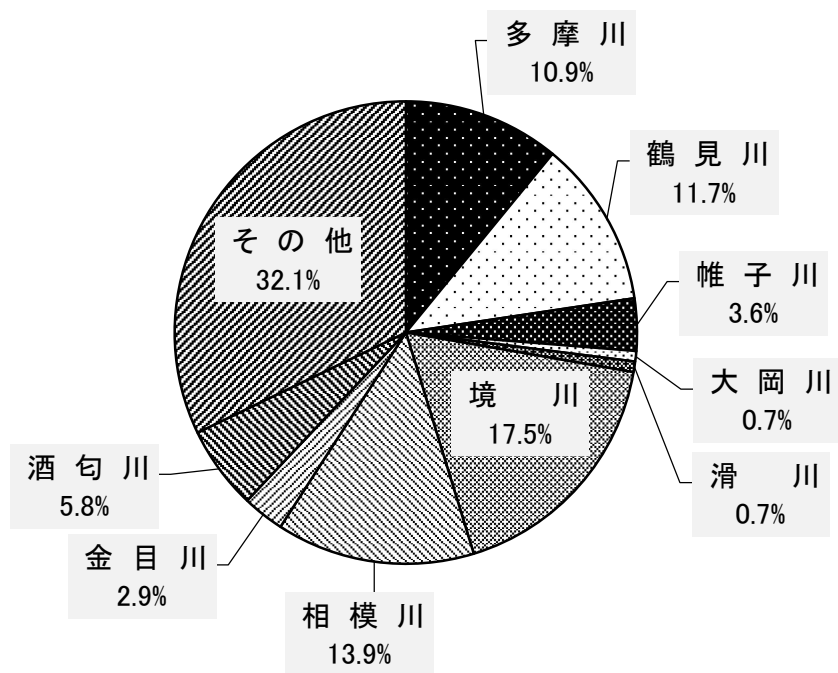


図4 水系別水質事故発生件数の割合

※「その他」にはグラフに記載のある河川以外の河川、湖及び湾が含まれます。

3 月別水質事故発生件数

令和7年度の月別発生件数を見ると、3月が19件で最も多く、9月が最も少なく2件でした。

魚死亡の水質事故は7月及び8月に最も多く、油浮遊は12月及び3月、その他の水質事故は3月に最も件数が多くなりました。

月別水質事故発生件数（地域別）及び月別水質事故発生件数（県内合計）をそれぞれ表3及び図5に示します。

表3 月別水質事故発生件数(地域別)

	県域				横浜地域				川崎地域				相模原地域				横須賀地域				県全域 種類別月計			月別 総計
	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	小計	魚死亡	油浮遊	その他	
4月	0	3	4	7	0	1	0	1	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	4	13
5月	1	1	2	4	0	1	2	3	0	2	2	4	0	0	1	1	0	0	0	0	1	4	7	12
6月	0	0	1	1	0	2	3	5	0	1	2	3	0	0	0	0	0	2	0	2	0	5	6	11
7月	1	2	2	5	0	2	2	4	0	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	1	2	4	7	13
8月	1	2	1	4	1	0	3	4	0	2	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	2	5	5	12
9月	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
10月	0	3	2	5	1	2	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	3	9
11月	0	2	0	2	0	1	3	4	0	1	3	4	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	11
12月	0	6	1	7	0	1	0	1	0	1	3	4	0	2	2	4	0	0	0	0	0	10	6	16
1月	0	2	0	2	1	1	2	4	0	1	1	2	0	1	1	2	0	0	0	0	1	5	4	10
2月	0	3	2	5	0	1	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	9
3月	1	3	0	4	0	4	1	5	0	2	4	6	0	0	2	2	0	1	1	2	1	10	8	19
合計	4	27	15	46	3	16	20	39	0	15	20	35	0	4	7	11	1	4	1	6	8	66	63	137

※横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及びその他県域では、それぞれ水質事故の集計方法が異なるため、合計数が異なる場合があります。

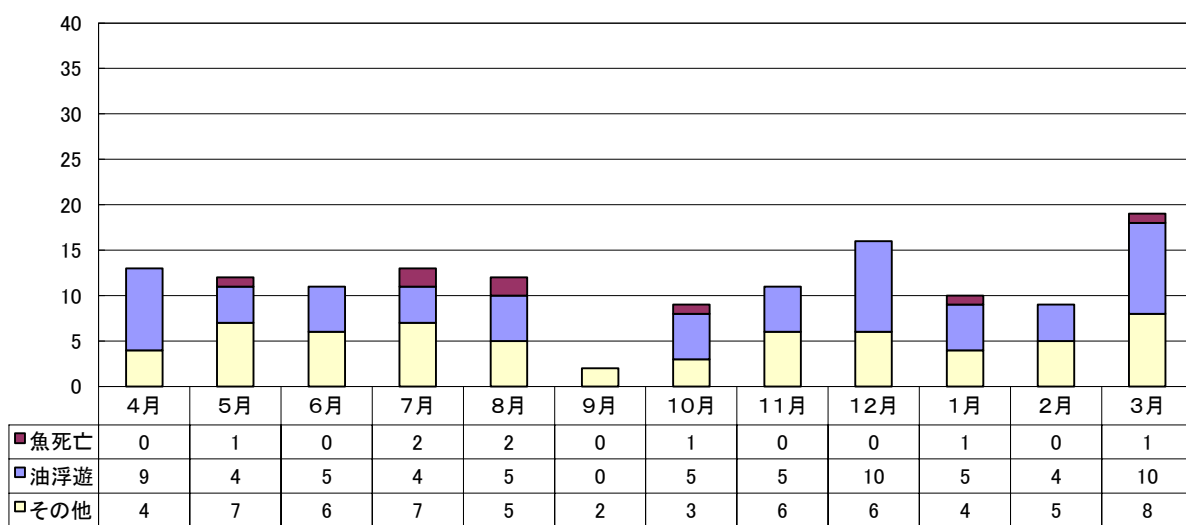


図5 月別水質事故発生件数(県内合計)

4 水質事故事例

令和7年度に神奈川県内(横浜市、川崎市、相模原市及び横須賀市を除く。)で発生した水質事故の発生状況(事故の概要等)について、区分ごとにまとめました。

なお、横浜市、川崎市、相模原市及び横須賀市で発生した水質事故については、各市のホームページを御覧ください。

(1) 魚死亡事故事例

魚死亡事故事例について、表4に示します。

表4 水質事故発生状況(魚死亡事故事例)

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
5/9	海老名市	相模川	貫抜川	河原口	○			不明	厚木保健福祉事務所から用水路で魚が死亡しているとの通報があり、市、県央地域県政総合センター、海老名警察署、寒川浄水場、水道水質センターが現地調査を行った。最終的にコイ等55匹の死亡が確認された。付近の事業者に聞き取りを行ったが、発生源を特定できなかった。
7/20	藤沢市	引地川	—	秋本橋～引地橋	○			不明	市民から引地川に死亡魚が数百匹いると市環境保全課に通報。死亡魚200kgを回収。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
8/14	茅ヶ崎市	相模川	千ノ川	高田	○			不明	茅ヶ崎市職員が死亡魚を発見し、茅ヶ崎市環境保全課へ連絡。小魚等約100匹の死亡魚を回収。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。
3/9	大磯町	葛川	谷戸川、不動川	生沢	○			不明	町民からの通報を受けて大磯町環境課が現地を確認したところ、谷戸川と不動川の合流地点で川の着色とコイ複数匹のへい死を確認。谷戸川から緑色の水が流入し合流地点の20m下流付近まで着色、同範囲でコイ複数匹がへい死。バックテストを実施したところ、有害物質等は検出されなかった。平塚土木事務所がへい死のコイ7匹を回収。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。

(2) 油浮遊事故事例

油浮遊事故事例について、表5に示します。

表5 水質事故発生状況(油浮遊事故事例)

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
4/2	小田原市	山王川	久野川	久野		○		事業所	市民から油浮遊の通報があり、市の調査により事業所のエンジンオイルのタンクのコックが開いていたことが原因であると判明した。市が河川に流出した油の回収及び事業者へ流出防止の指導を行った。
4/22	三浦市	湾(蓮河含む)	—	城ヶ島		○		事業所	着岸中の船が船内に残った海水を排出する際に、配管バルブの動作不良により機械油とともに排出した。原因者がオイルフェンスを設置。東部漁港事務所及び水産技術センターが原因者に対し願末書の提出等を指示。生物への影響はなかった。
4/25	三浦市	湾(蓮河含む)	—	松輪		○		不明	市民から間口漁港で油が浮遊しているとの通報があり、市が現地調査を行った。市が原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
5/12	小田原市	山王川	山王川	中町		○		工事	県民から芦子橋で油が浮遊しているとの通報があり、市の現地調査の結果、河川工事が原因であることが判明した。小田原土木事務所小田原土木センターがオイルフェンスを設置し、原因者へ油の回収及び再発防止策等の指導を行った。生物への影響はなかった。
7/3	厚木市	相模川	善明川	長坂境橋		○		不明	厚木市生活環境課が善明川で油の流入を確認。市がオイルマントを設置。市が原因調査をしたところ、付近の火災由来の可能性があったが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
7/16	寒川町	相模川	小出川	岡田		○		不明	町下水道課が油浮遊を確認。町はオイルフェンスを設置。原因は特定できなかったが、生物への影響はなかった。

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)		
8/21	平塚市	金目川	渋田川	東豊田		○		事業所	平塚警察署から湘南地域県政総合センターあてに油膜がある旨連絡。原因は、オイルタンクが破損し、重油が水路へ流出したものと判明。市は、オイルフェンスを設置すると共に、原因者へ油の回収等の流出防止対策を指示。生物への影響はなかった。
8/25	三浦市	湾(運河含む)	—	松輪		○		不明	漁業協同組合関係者から漁港に油浮遊を発見した旨、関係各所に連絡。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
10/1	座間市	相模川	目久尻川	南栗原		○		不明	市民から目久尻川に油が浮遊していると座間市生活安全課に通報。市は油浮遊範囲にオイルフェンスを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
10/3	鎌倉市	境川	関谷川	関谷		○		工事	市民から関谷川に油が浮遊していると鎌倉市環境保全課あて通報。原因は、解体工事現場の灯油タンクが破損したため、灯油が約2リットル流出したものと判明。市は油浮遊周囲にオイルマットを設置し、原因者に顔書きの提出を指示。生物への影響はなかった。
10/22	山北町	酒匂川	尺里川	向原		○		不明	飯泉取水管理事務所から尺里川に接続する水路に油膜があると西地域県政総合センターあて通報。ごく小規模であるため、オイルマットの設置はせず。臭気試験結果は臭気強度3。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
11/11	藤沢市	湾(運河含む)	—	江の島漁港		○		不明	海上保安庁から江の島漁港内において油漏れが発生しているとの通報があった。藤沢土木事務所はオイルマットを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
11/15	南足柄市	酒匂川	太刀洗川	塚原		○		工事	小田原市消防本部から太刀洗川に接続する水路に油が流出したとの通報。原因は、南足柄市が発注した下水工事の機材の軽油タンクから誤って軽油約1リットルが流出したものと判明。市は原因者に顔書きの提出を指示。生物への影響はなかった。
12/8	厚木市	相模川	境田川	岡田		○		交通事故	厚木市消防本部から境田川に油が流出したとの通報。原因は、大型トラックがカーブを曲がり切れず、縁石に接触したことにより、軽油10～20リットルが流出したものと判明。厚木市消防本部がオイルマットを設置し、市は油浮遊周囲にオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
12/9	湯河原町	千歳川	藤木川	宮上		○		不明	町民から藤木川に油が浮遊していると湯河原町環境課あて通報。ごく小規模であるため、オイルマットの設置はせず。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
12/15	藤沢市	引地川	一色川	菖蒲沢		○		交通事故	藤沢市消防本部から一色川に油が流出したとの通報。原因は、トラックの横転事故により、軽油40リットルが流出したものと判明。市はオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
12/16	藤沢市	境川	—	鶴沼東		○		不明	藤沢土木事務所から境川に油が浮遊していると藤沢市環境保全課あて通報。藤沢土木事務所はオイルフェンスを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
12/22	鎌倉市	境川	大塚川	常盤		○		不明	市民から大塚川に油が浮遊していると横須賀三浦地域県政総合センターあて通報。鎌倉市が油浮遊周囲にオイルマットを設置。さらに近隣事業者も自主的にオイルマットを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
12/26	厚木市	相模川	中津川	棚沢		○		交通事故	厚木市生活環境課から中津川に接続する水路に油が流出したとの連絡。原因は、トラックが用水路に乗り上げ、機械油が最大で数リットル程度流出したものと判明。市は油浮遊周囲にオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
1/9	松田町	酒匂川	飲之沢	松田惣領		○		交通事故	松田町環境上下水道課から、飲之沢に油が流出したとの連絡。原因は、乗用車の転落事故によりガソリンが流出したものと判明。町は油浮遊周囲にオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
1/20	藤沢市	境川	滝川	大鋸		○		その他	藤沢市消防本部から滝川に接続する道路側溝に油が流出したとの通報。原因は、住民が灯油を購入し運んでいる際に誤ってポリタンクごと落とし、灯油18リットルが流出したものと判明。市は油浮遊周囲にオイルマットを設置した。生物への影響はなかった。
2/5	三浦市	湾(運河含む)	—	晴海町		○		不明	東部漁港事務所から三浦市通り矢付近で油が流出しているとの通報があった。市が原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。海上保安庁が航走拡散により油防除を行った。生物への影響はなかった。
2/15	山北町	酒匂川	滝沢川	平山		○		交通事故	小田原市消防本部から滝沢川に油が流出したとの連絡。原因は、乗用車の転落事故により油約3リットルが流出したものと判明。市消防と神奈川県内広域水道企業団は油浮遊周囲にオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
2/25	山北町	酒匂川	鮎沢川、皆瀬川	鮎沢橋～樋口橋		○		その他	小田原市消防本部から鮎沢川に接続する道路側溝に油が流出したとの通報。原因は、走行中のトラックの燃料タンクから軽油が最大50リットルが流出したものと判明。市消防は路上にオイルマットを設置した。生物への影響はなかった。
3/11	平塚市	相模川	鹿見堂排水路	四之宮		○		事業所	原因者からエンジンオイルが危険物保管庫のタンクから流出したと平塚市環境保全課に通報。市下水道整備課と環境保全課が現地確認。原因はオイルタンクドレーンが開いたためと判明。流出量は最大18リットル。消防がオイルマットを設置。原因者へ清掃を指示。生物への影響はなかった。
3/31	秦野市	金目川	逆川	秦野中井IC		○		交通事故	秦野市宿直からトラック事故が発生し車両から油が流出したと市生活環境課に連絡。市生活環境課が現地で雨水側溝への流出を確認。市が側溝及び逆川と室川の合流地点にオイルマットを設置。生物への影響はなかった。
3/31	南足柄市	酒匂川	洞川	千津島		○		不明	南足柄市道路部局から市環境課へ路上に油が流出していると通報。消防と市が路上にオイルマットを設置。市環境課から連絡を受けた企業団が水路で油の浮遊を発見したが、1時間後には確認されなかった。生物への影響はなかった。

(3) その他事事故事例

その他事事故事例について、表6に示します。

表6 水質事故発生状況（その他事事故事例）

発生日	市町村	発生場所			区分			原因	事故概要及び対応	
		水系	支川等	発生場所	魚死亡	油浮遊	その他(内容)			
4/2	逗子市	湾(運河含む)	小坪川	小坪			○	白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市の現地調査により海域まで到達していることが確認された。市が原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
4/8	伊勢原市	金目川	板戸川	鈴川			○	濁水	工事	市が板戸川と水路が合流する地点にて濁水が流れていることを発見した。現地調査の結果、解体工事現場からの排水が原因であることが判明した。原因者に対し、濁水の排出停止及び事故報告書の提出を指示。生物への影響はなかった。
4/22	逗子市	田越川	—	小坪			○	白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、東逗子橋から中原橋で白濁が確認された。市が付近の事業所に聞き取りを行ったが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
4/25	秦野市	金目川	—	蓑毛			○	白濁	工事	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市の現地調査の結果、上流側の河川工事が原因であることが判明した。河底の砂や岩が削れて白濁水が生じたものと考えられ、生物への影響はなかった。
5/19	鎌倉市	神戸川	—	津西			○	濁水	工事	市民から河川が濁っているとの通報があり、市の現地調査の結果、道路工事が原因であることが判明した。市が原因者に対し、河川・側溝等の堆積物の除去及び顛末書の提出を指示。生物への影響はなかった。
5/23	逗子市	湾(運河含む)	小坪川	小坪			○	白濁	不明	市民から河川が白濁しているとの通報があり、市、消防及び警察が現地調査を行った。海域への到達は確認されず、生物への影響はなかった。
6/16	秦野市	酒匂川	濁沢から四十八瀬川	八沢			○	白濁	事業所	市民から事業所より白濁水が漏洩しているとの通報があり、原因者に確認したところ、原乳をタンクへ移送する管の途中のバルブが緩んでいたことが原因であることが判明した(漏洩量400kg)。原因者へは流出防止を指示。生物への被害はなかった。
7/6	茅ヶ崎市	湾(運河含む)	—	汐見台雨水幹線			○	白濁	事業所	茅ヶ崎市汐見台の2号水路(雨水吐出口)における白濁水の流出について、市民から茅ヶ崎市役所に通報。原因は、市内事業所敷地内の清掃作業による白濁水の流出と判明。市はオイルフェンスを設置し、原因者へ白濁水の回収及び流出防止等を指示。水質検査を行ったが有害物質等は検出されず、生物への影響はなかった。
7/10	開成町	酒匂川	要定川	延沢			○	発泡	不明	市民から汚れた排水が流れていると飯泉取水管理事務所に通報。同事務所が現場確認をしたところ、発泡を確認したが、原因は特定できなかった。生物への影響はなかった。
8/3	葉山町	森戸川(葉山)	利根山川	堀内			○	白濁	工事	町民から白濁水があると葉山町役場まで通報。原因は、水性ペンキが付いた刷毛を洗浄した際に、白濁水が河川へ流出したものと判明。町は原因者へ流出防止及び回収を指示。生物への影響はなかった。
10/16	寒川町	相模川	小出川	大曲			○	発泡	不明	町民から排水路に白い泡状のものと寒川町下水道課まで通報。市は周囲にオイルフェンスを設置。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。また、簡易水質検査を行ったが有害物質等は検出されなかった。生物への影響はなかった。
10/29	鎌倉市	滑川	—	浄明寺			○	白濁	不明	市民から滑川が白濁していると鎌倉市環境保全課まで通報。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
12/3	鎌倉市	境川	明月川	山ノ内			○	白濁	不明	市民から明月川が白濁していると鎌倉市環境保全課まで通報。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
2/13	綾瀬市	相模川	目久尻川	虚空蔵橋			○	白濁	不明	市民から虚空蔵橋付近の小園排水路から目久尻川に白濁水が流入していると綾瀬市環境保全課まで通報。原因調査をしたが、発生源を特定できなかった。生物への影響はなかった。
2/18	綾瀬市	引地川	蓼川	大上			○	汚水	その他	下水道施設のマンホールポンプ水位異常警報を受けて綾瀬市下水道課が現地確認したところ、マンホールから汚水が溢れていた。溢れた汚水が蓼川に流入しているため綾瀬市環境保全課も対応。原因は、マンホールポンプの破損によるものと判明。翌日に復旧。生物への影響はなかった。